

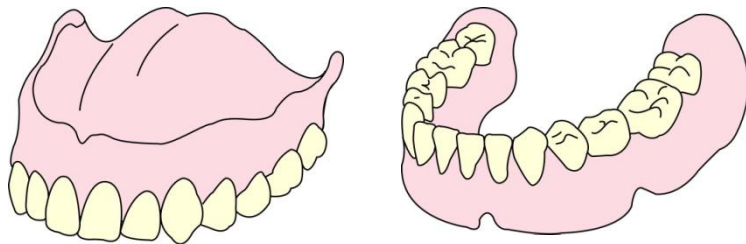
口は健康のもと Vol.178

続々 入れ歯の温故知新

これまで2回にわたり入れ歯の歴史についてご説明しました。最古の入れ歯は日本で作られた木製の入れ歯であること、江戸時代には「入れ歯師」により義歯が進歩したことをお伝えしました。また、幕末頃に米国で開発されたゴム製の義歯が導入されたものの、製作過程で爆発事故があったり、早期に劣化する欠点がありました。

これらを改善するために、1940年代に米国で入れ歯用の樹脂材料が開発されました。様々な改良を受けながら、現在でもこの材料で義歯の床（ピンクのところ）が作られています。研磨すると平滑で光沢がでますが、顕微鏡で拡大すると多数の小さな孔があり、水分とともにお口の中の細菌も入り込みます。すなわち入れ歯は食後、毎回ブラシで清掃するとともに、時折、義歯洗浄剤で化学的にも洗浄するのが望ましいこととなります。

現在、製作されている義歯の中には金属と樹脂とのコンビネーションのもの（金属床義歯）もあり、金属部分には細菌が付着しにくいので衛生的である上、つけ心地が良く壊れにくいという利点があります。ただし保険診療の適用が限られます。興味のある方は歯科医院でご相談ください。



奥羽大学歯学部附属病院
総合歯科 教授 山森 徹雄

